



相手の立場にたつ

加藤 里桜

資金や技術がなければ、もちろん支援はできない。学生の私にできることはないのではないか？しかし、私は今回の研修で、実際に支援の場で働いている方達のお話を伺い、国際協力の間では「相手の立場にたつ」姿勢が、1番大切だと感じた。

その国の文化や歴史には、それらを作り上げてきた人達の想いや理由（わけ）があると思う。それは、今を生きる人にとっては、守るべきものであり、生き方にも繋がるものである。しかし、そのようなものの大半は、他国の人に理解されなかったり、理解されるまでに多くの時間を要したりすることが、現実だと思う。だからこそ、国際協力の場では、他国に対する純粋な理解と、誠意が必要だと、研修で支援されている方達のお話を伺うなかで強く感じた。

相手の文化や歴史を理解しながら共に協力し、前進していくことこそが「相手の立場にたつ」国際支援のかたちだと思う。そして、同じ目線で共に前進していくことは、最終的には相互支援にも繋がっていくにちがいない。この姿勢は、身近で私のような学生でも努めることができる。だからこそ、私は今後自国のことだけではなく、世界の国の人々の考えや歴史について深く知る努力をしていきたい。

最後に、今回この研修に参加した全国の高い志を持つ仲間との時間も、私にとってかけがえのないものとなった。御尽力頂いた全ての方々に、感謝したい。